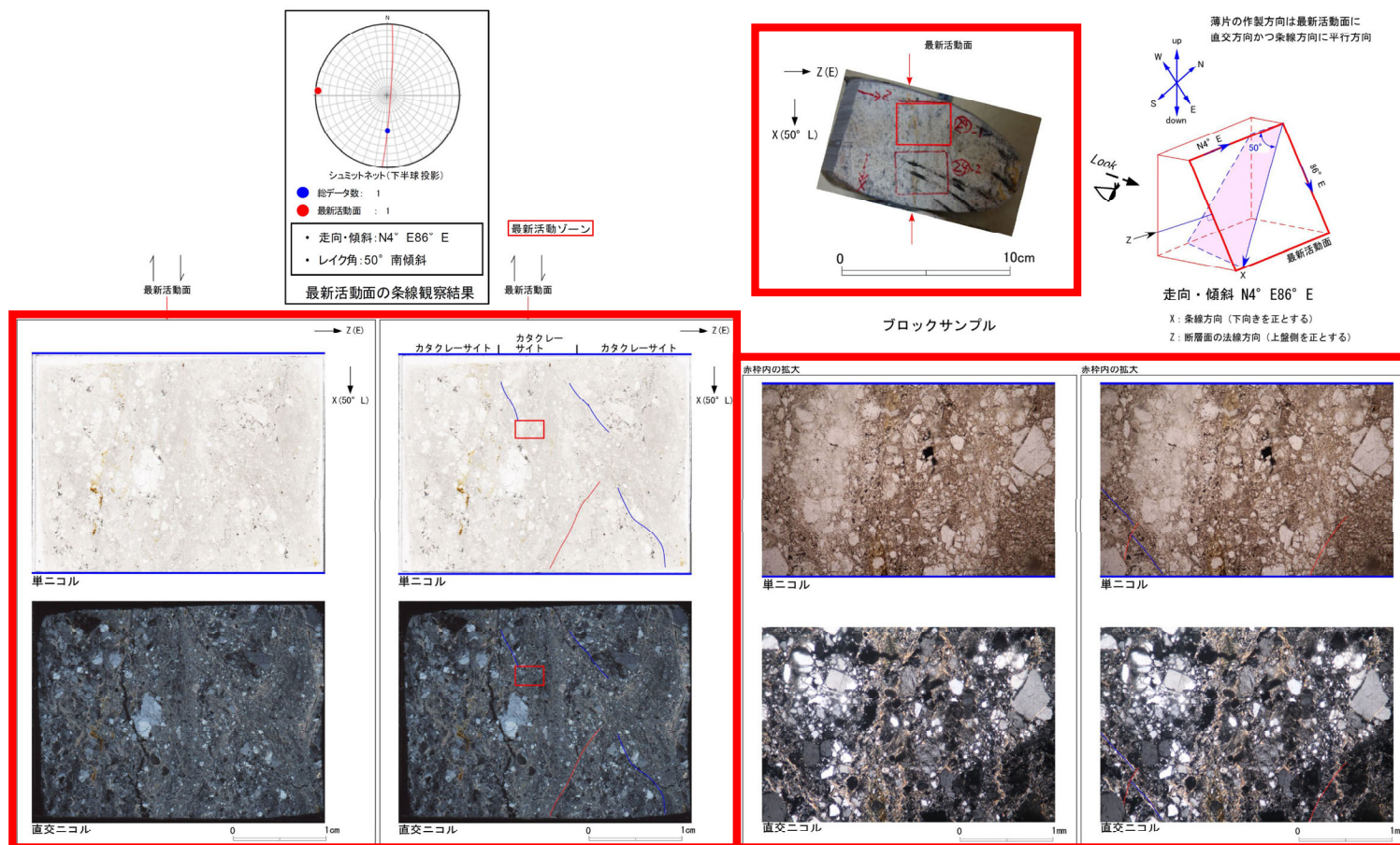


- 薄片試料の観察自体は適切に行われていた※が、従前提示していた資料ではZ方向を逆向きに記載しており、正しい方向に修正することで上盤と下盤が入れ替わることから、変位センスは正断層センスに変更となる(副次的変更)。
※薄片試料の作製確認については次頁以降に示す。
- 研磨片写真及び薄片全景写真に示した薄片試料のZ方向が正しくなるよう写真を反転させることで修正した。(赤枠箇所)

H27-B-2 深度35.92~35.95m (1/3)

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.92m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 組織は漸移的に変化する。
 - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
 - (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



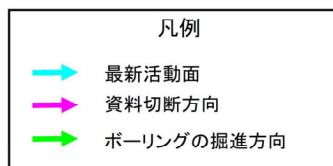
- 薄片試料の作製箇所について、試料切断方向が正しい(最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行)ことを確認した。

試料切断方向確認資料(H27-B-2孔 深度35.92m)

研磨片写真

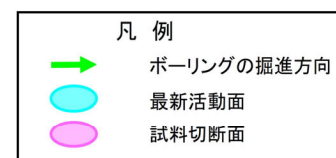
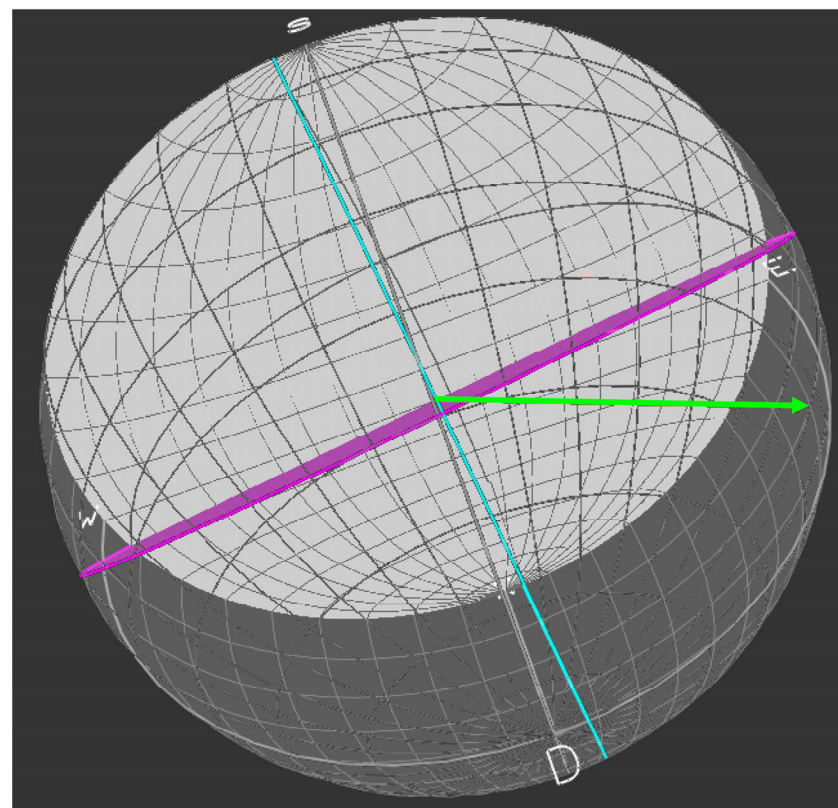


ボーリング掘進方向および最新活動面位置、試料切断方向については、コア写真を利用してその位置が適切であることを確認した。



5cm

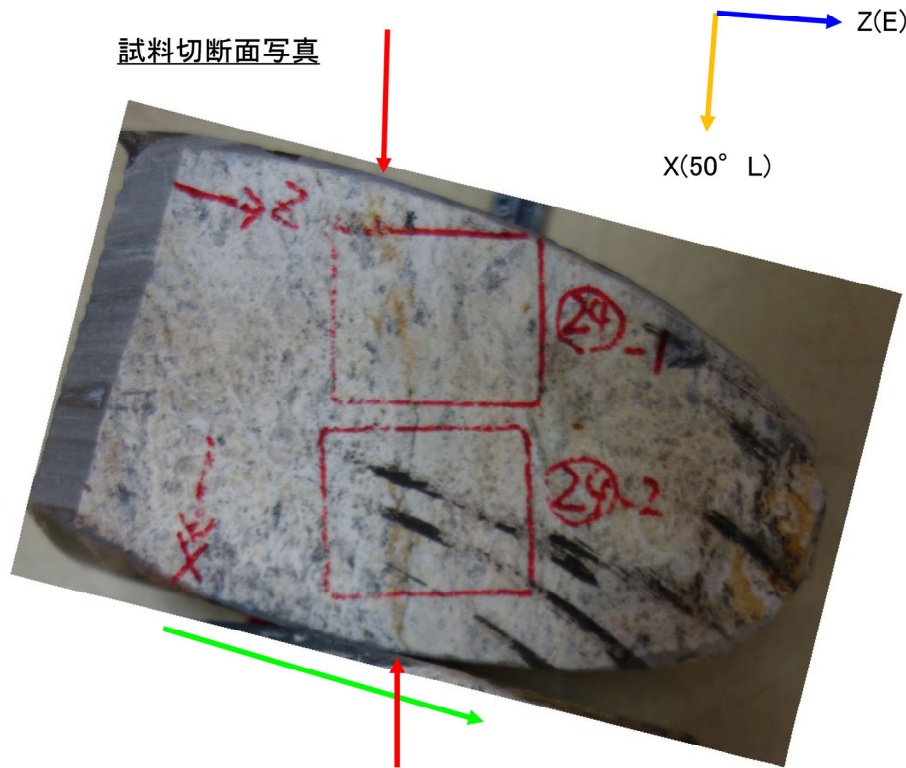
ボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の関係を3次元的に示した図



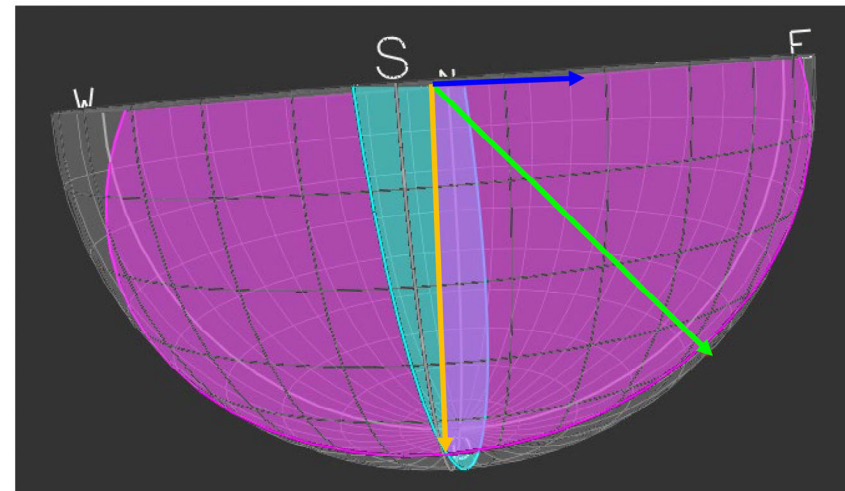
- 薄片試料の作製箇所について、試料の切断方向を確認し、下記の試料切断面写真に示したZ方向、X方向が正しいことを確認した。
- 従前提示していたZ方向は、下記で示した矢印の方向と逆であったことから修正する。

試料切断面方向確認資料(H27-B-2孔 深度35.92m)

- 薄片作製位置は、肉眼観察により認定した最新活動面に沿って最も細粒化した部分を含み、試料の人為的な乱れのない箇所であることを確認した。



ボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の関係を3次的に示した図



ボーリング掘進方向および最新活動面位置、試料切断方向については、コア写真を利用してその位置が適切であることを確認した。

5cm

凡例	
	最新活動面
	X方向
	Z方向
	ボーリングの掘進方向

凡例	
	X方向
	Z方向
	ボーリングの掘進方向
	最新活動面
	試料切断面

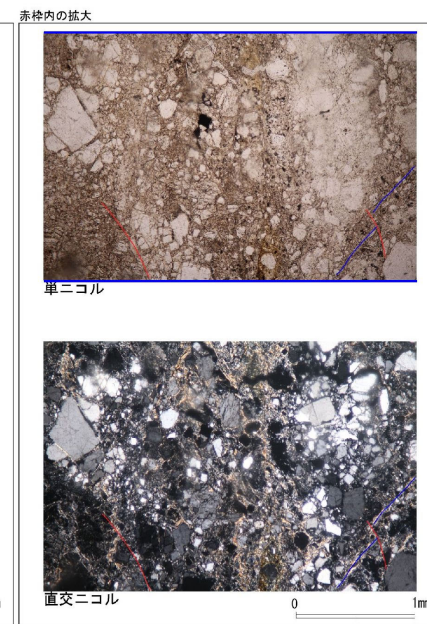
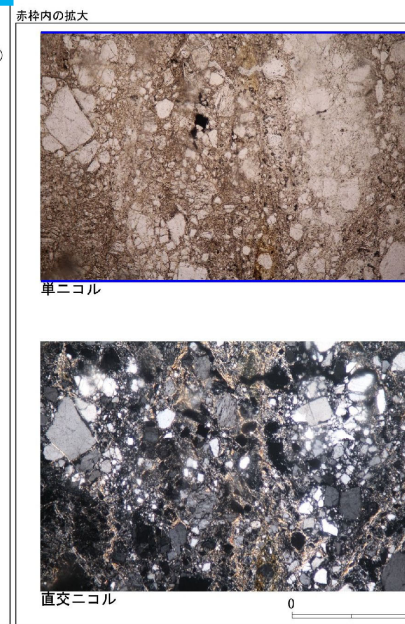
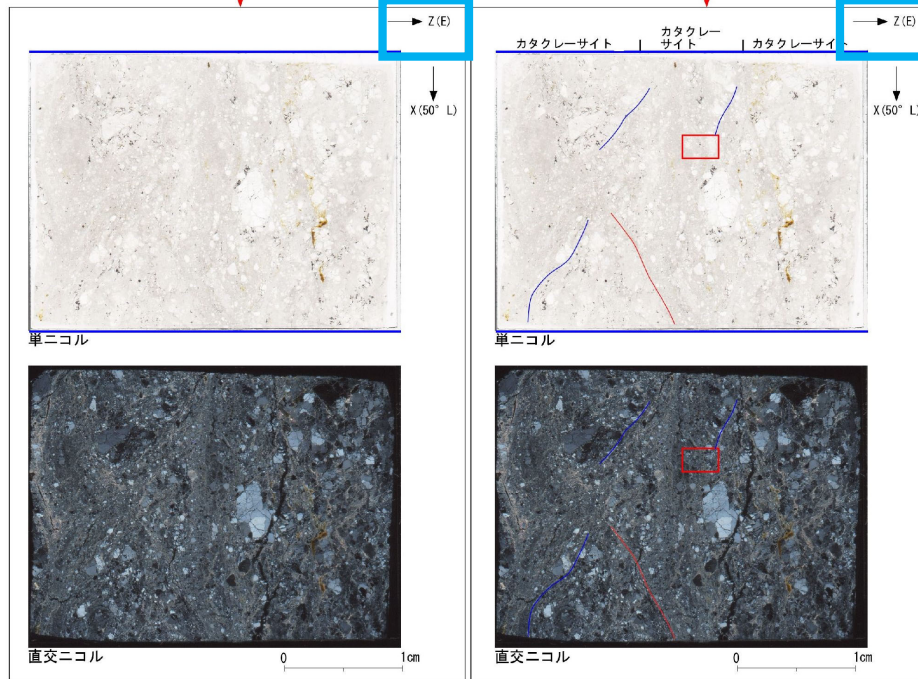
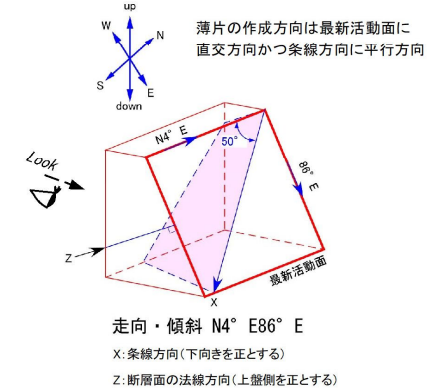
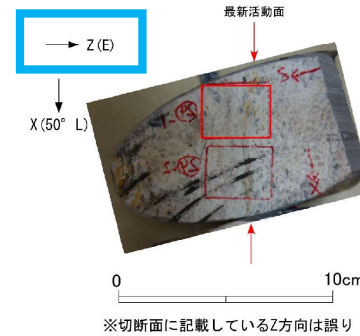
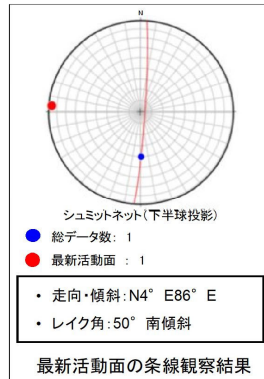
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断面の法線方向(上盤側を正とする)

- 従前提示していた研磨片写真及び薄片全景写真に示したZ方向(断層面の上盤側)は下記のようにしていた。(水色枠箇所)

非モデル化破碎帯 薄片試料観察(H27-B-2 深度35.92m)

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(水色枠)

H27-B-2のボーリングコア(深度35.92m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-2 深度35.92~35.95m (1/3)

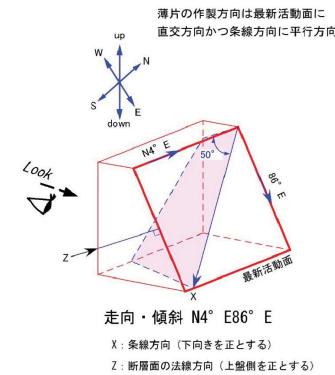
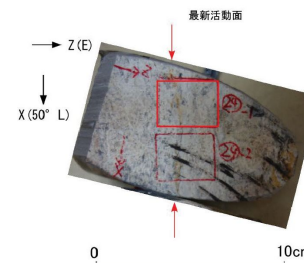
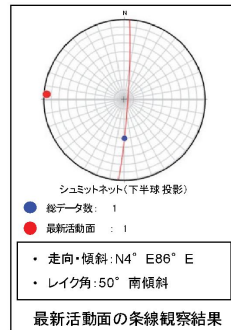
青枠：変位センスに関する部分

62のエビデンス (変位センス) (1/3)

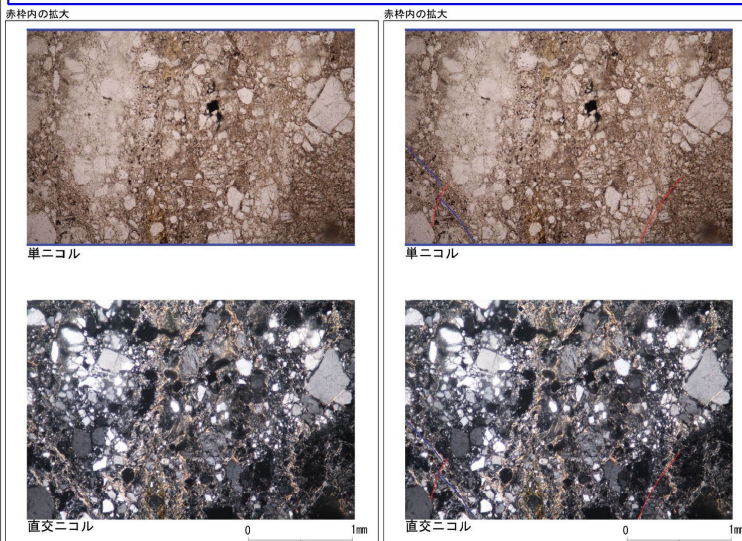
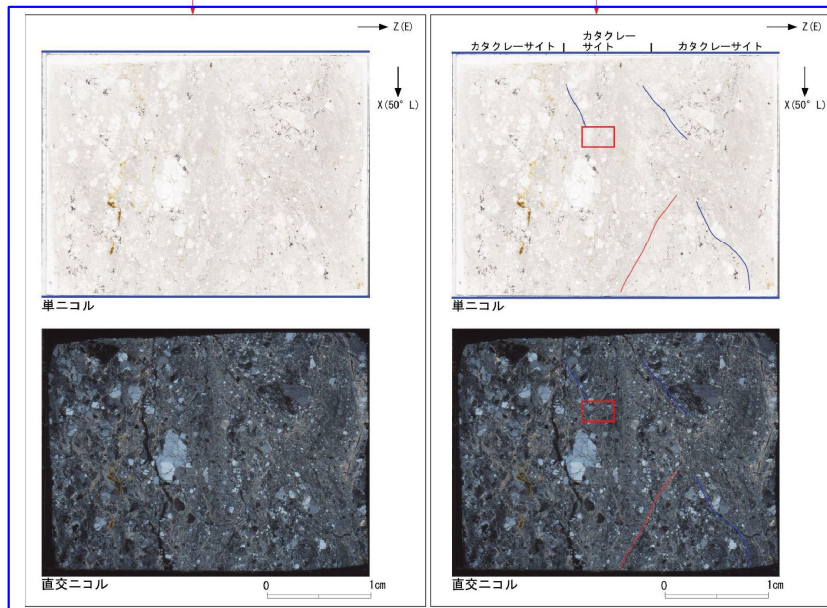
・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.92m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 組織は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



ブロックサンプル



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

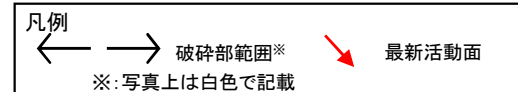
余白

- 従前提示していたデータでは薄片観察資料に最新活動面の深度を「60.58m」と記載していたが、以下のことから、最新活動面の深度を「60.58m」から「60.59m」に変更する。
- コアを再観察し、細粒部を伴い最も直線的である深度「60.59m」(下図の赤矢印の面)が最新活動面であることを確認した。
- 従前提示していたデータの最新活動面の深度を「60.58m」と記載していたが、従前の作業プロセスでは今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため、「60.58m」と記載した根拠がトレースできなかった。

最新活動面認定根拠(H27-B-2 深度60.26～60.69m)

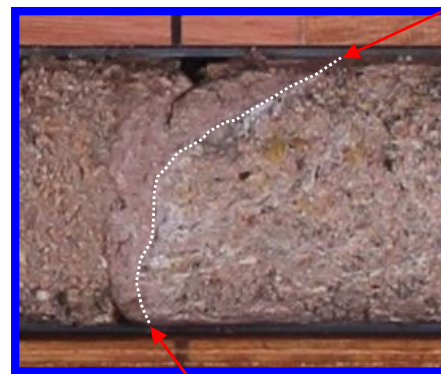
- 波打つが、破碎部範囲内では細粒部を伴い最も直線的であることから、深度60.59mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



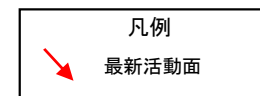
青枠部拡大

0 5 cm



青枠部拡大

0 5 cm

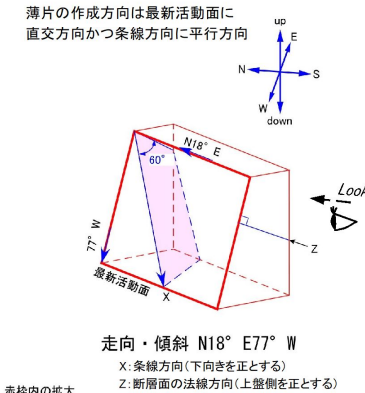
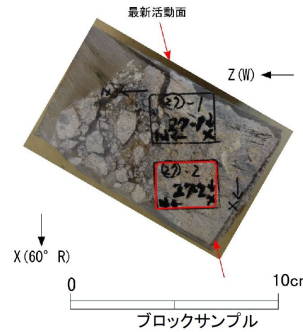
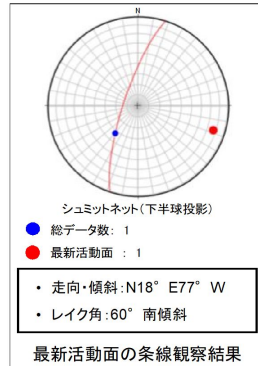


• 最新活動面の深度は、性状一覧表に数値の記載はないが、薄片観察資料に「60.58m」と記載していた。

非モデル化破碎帯 薄片試料観察 (H27-B-2 深度60.58m)

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(赤太枠)

H27-B-2のボーリングコア 深度60.58m から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。



<p>最新活動面 Z(W) X(60° R) 単ニコル</p>	<p>最新活動面 Z(W) X(60° R) カタクレーサイト カタクレーサイト カタクレーサイト 単ニコル</p>	<p>最新活動面 Z(W) X(60° R) 単ニコル</p>
<p>直交ニコル 0 1cm</p>	<p>直交ニコル 0 1cm</p>	<p>直交ニコル 0 1mm</p>

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

最新活動面認定根拠(H27-B-2 深度60.26～60.69m)

65のエビデンス (最新活動面)

・波打つが、破碎部範囲内では細粒部を伴い最も直線的であることから、深度60.59mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



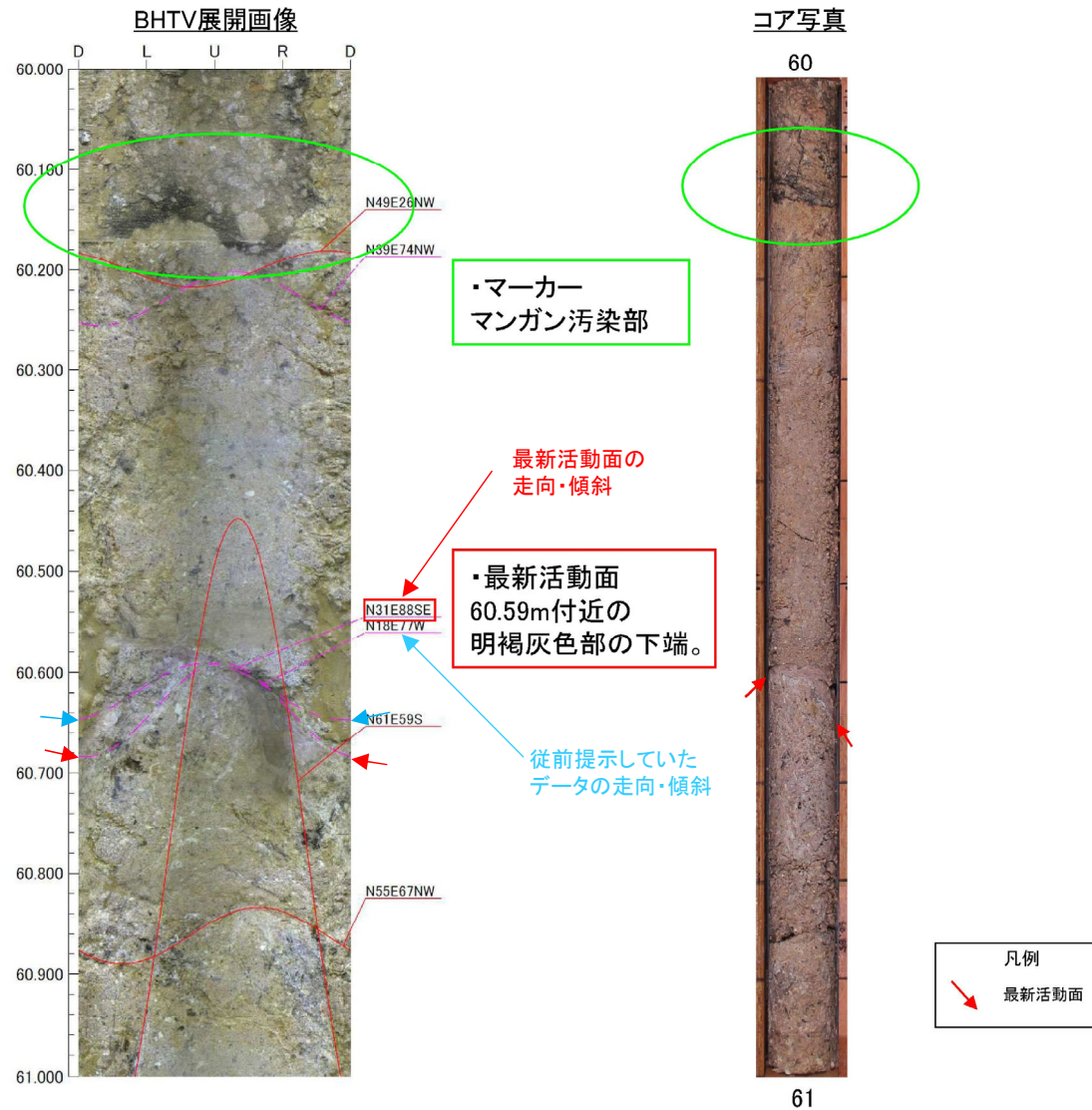
凡例
最新活動面

0 5 cm

- 最新活動面の変更に伴い、深度60.59mのせん断面における走向・傾斜であるN31E88SE(下図のBHTV展開画像の赤矢印)に変更となる。(副次的変更)
- なお、従前のデータ取得に用いたBHTV画像では、深度60.59mのせん断面に該当するトレース線の記載がなかったことから、再観察に伴いトレース線の追加を行ったうえで走向・傾斜を取得した。
- 従前提示していたデータは、データ取得時のBHTV画像において60.58mに相当する不連続面のトレース線を本破碎部の走向・傾斜としたと推定される(下図のBHTV展開画像の水色矢印)。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果(H27-B-2 深度60.26~60.69m)

・ H27-B-2 深度60.26~60.69mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN31° E88° SEである。



・ 走向・傾斜は性状一覧表に「N18E77W」と記載していた。

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(11/19)

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(赤太枠)

断面図上の番号	建設箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層方ワン・断面外縁の幅 (cm)	最新活動面		生線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
①	H27-B-2 (傾斜45°)	31.15	31.66	N7E	78W	43.1	1.0	無	-	80L	正	-	31
②	H27-B-2 (傾斜45°)	34.37	34.48	N18E	46W	10.8	0.6	無	-	0	-	左	34
③	H27-B-2 (傾斜45°)	35.36	35.46	N89E	79N	8.7	1.5	無	-	10R	-	右	35
④	H27-B-2 (傾斜45°)	35.88	35.73	N7W	52W	4.1	0.2	無	-	70R	正	-	36
⑤	H27-B-2 (傾斜45°)	35.92	35.95	N4E	86E	2.3	-	-	-	50L	逆	左	35
⑥	H27-B-2 (傾斜45°)	48.08	48.12	N36W	15NE	3.1	0.5	無	-	0	-	右	48
⑦	H27-B-2 (傾斜45°)	54.72	54.77	N8W	79W	4.2	0.3	無	-	0	-	左	54
⑧	H27-B-2 (傾斜45°)	60.26	60.69	N18E	77W	36.5	-	-	-	60R	逆	右	60
⑨	H27-B-2 (傾斜45°)	63.75	63.85	N47W	24E	8.0	-	-	-	-	-	-	63

凡例

- 最新活動面
- 破碎幅
- 断層方ワン
- 粘土の狭在物が認められる箇所
- *1:露頭
- *2:試験坑

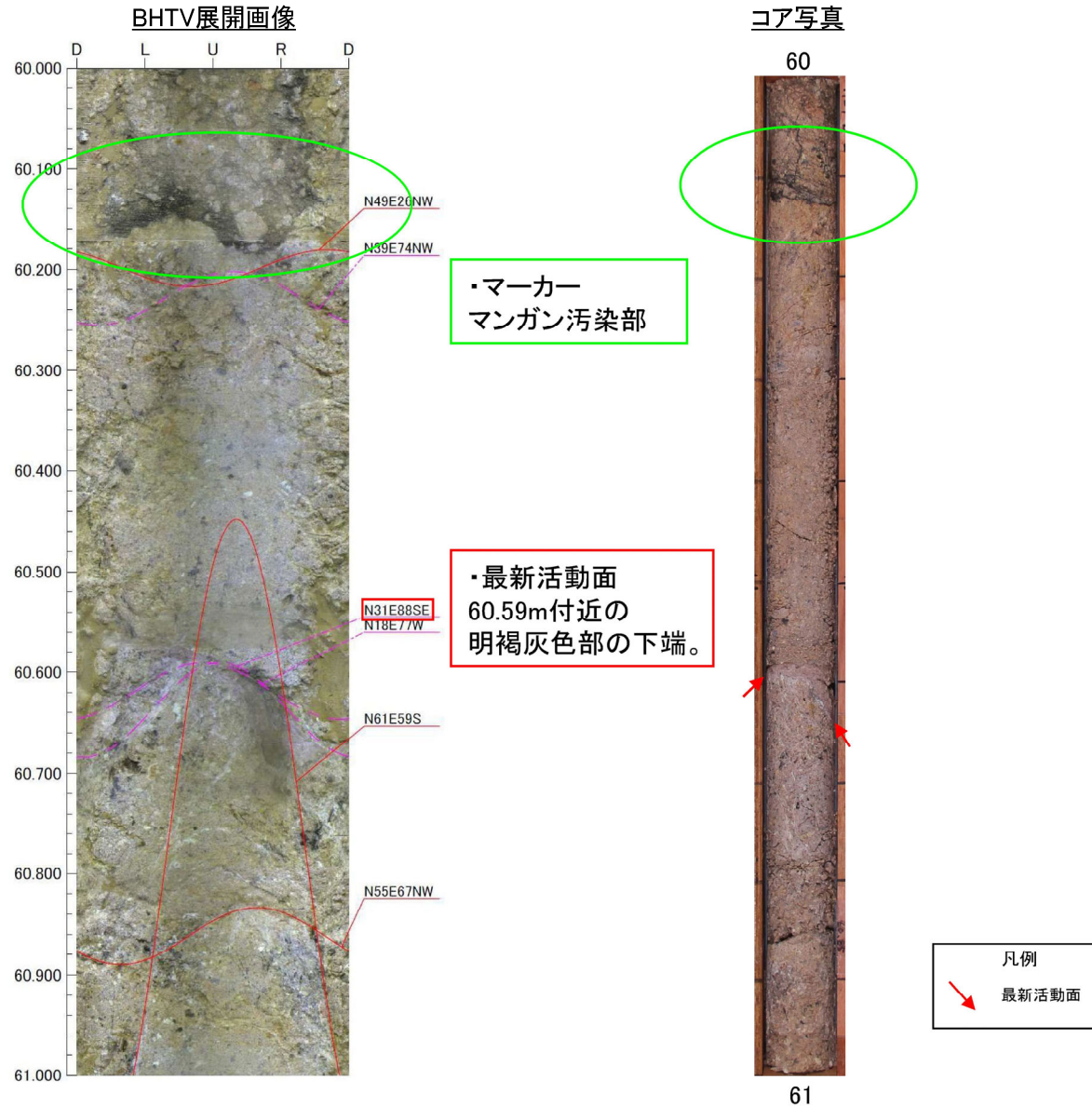
【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

参考2-183

ボアホールカメラ展開画像との対比結果(H27-B-2 深度60.26～60.69m) 66のエビデンス (走向・傾斜)

・ H27-B-2 深度60.26～60.69mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN31° E88° SEである。



- 条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて観察された条線を補正して導出している。条線の観察は適切に行われていた*が、走向・傾斜がN31° E88° SEに変更になることにより、条線方向は75Lに変更となる。(副次的変更)
 ※最新活動面である条線観察位置(深度60.59m)において試料を採取し、今回設定したプロセスによって観察した条線方向(写真赤枠)により、当時の観察は正しいことを確認した(次頁参照)。
- よって、当時の条線観察も最新活動面(深度60.59m)で実施されていたことを確認した。正しい最新活動面で実施されていた理由については、条線観察時に最新活動面の見直し(60.58m→60.59m)が行われたと推定される。

条線観察結果(H27-B-2孔 深度60.59m)

H27-B-2孔 深度60.59mの断層面の走向・傾斜はN31° E88° SEであり、75Lの条線が認められる。

コア写真



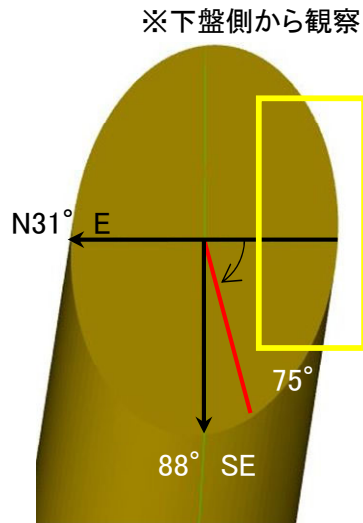
観察模式図は、条線の観察状況を示すため下盤側から上盤側を見た図として作成している。写真は条線方向の表記(条線方向は上盤から見た方向で表記する)と合わせるため、上盤側から下盤側を見ているように観察面の写真を反転している。

凡例

◀ 条線観察位置 ← → 破砕部範囲* ▶ 最新活動面

※:写真上は白色で記載

観察模式図



凡例

● 最新活動面 ↘ レイク

条線観察位置拡大



赤枠内拡大

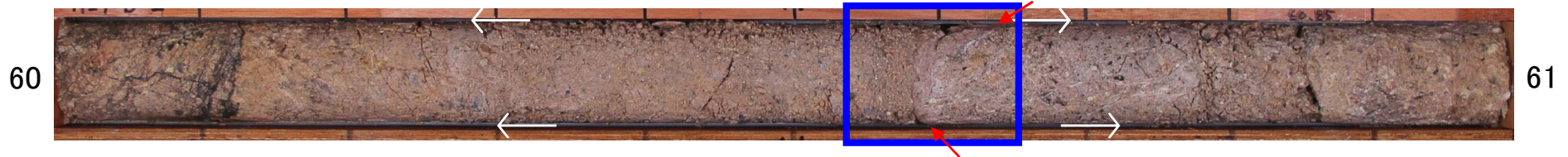


凡例

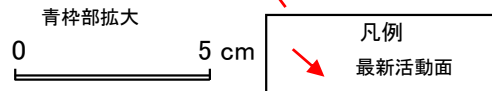
→ ← 条線方向

- 条線観察位置を残試料より復元し、最新活動面位置(深度60.59m)で計測していることを確認した。

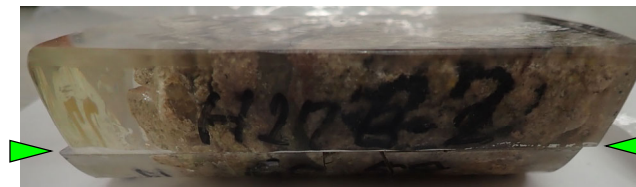
コア写真



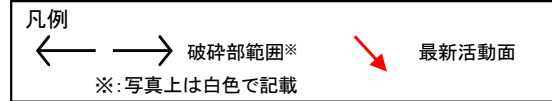
研磨片作製位置



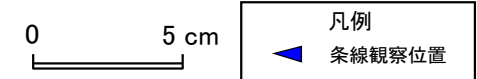
研磨片写真(斜めから)



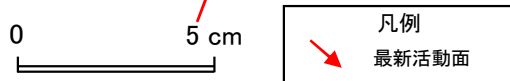
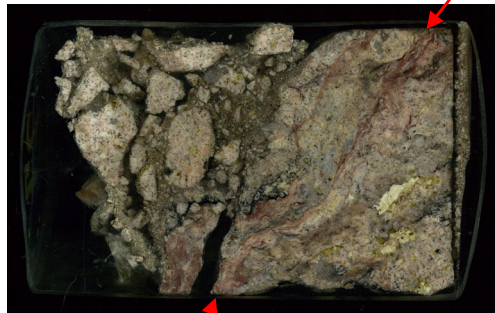
条線計測のため、研磨面と平行方向に切断



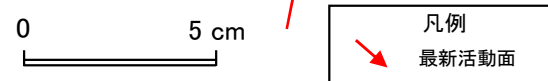
条線観察位置



研磨片写真



試料切断面



条線観察位置拡大



黄枠部拡大

注)条線方向は上盤から見た方向で表記するため、前頁の写真は反転している。

・ 条線方向は性状一覧表に「60R」と記載していた。

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(11/19)

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(赤太枠)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断面ガウジ・断面角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	方位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
①	H27-B-2 (傾斜45°)	31.15	31.86	N7E	78W	43.1	1.0	無	-	80L	正	-	31	32
②	H27-B-2 (傾斜45°)	34.37	34.48	N18E	46W	10.8	0.6	無	-	0	-	左	34	35
③	H27-B-2 (傾斜45°)	35.36	35.46	N69E	79N	8.7	1.5	無	-	10R	-	右	35	36
④	H27-B-2 (傾斜45°)	35.88	35.73	N7W	52W	4.1	0.2	無	-	70R	正	-	35	36
⑤	H27-B-2 (傾斜45°)	35.92	35.95	N4E	86E	2.3	-	-	-	50L	逆	左	35	36
⑥	H27-B-2 (傾斜45°)	48.08	48.12	N38W	15NE	3.1	0.5	無	-	0	-	右	48	49
⑦	H27-B-2 (傾斜45°)	54.72	54.77	N8W	79W	4.2	0.3	無	-	0	-	左	54	55
⑧	H27-B-2 (傾斜45°)	60.26	60.69	N18E	77W	38.5	-	-	-	60R	逆	右	60	61
⑨	H27-B-2 (傾斜45°)	63.75	63.85	N47W	24E	8.0	-	-	-	-	-	-	63	64

凡例

← → : 最新活動面
 ← → : 破碎幅
 — : 断面ガウジ
 ○ : 粘土の狭在物が認められる箇所
 *1: 露頭
 *2: 試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

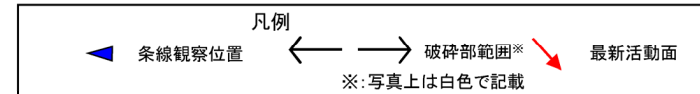
参考2-183

条線観察結果(H27-B-2孔 深度60.59m)

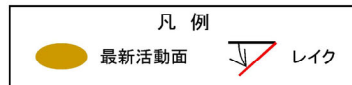
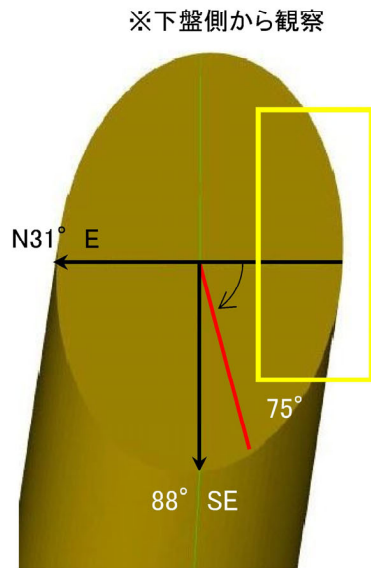
67のエビデンス (条線)

H27-B-2孔 深度60.59mの断層面の走向・傾斜はN31° E88° SEであり、75Lの条線が認められる。

コア写真



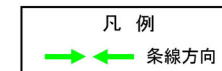
観察模式図



条線観察位置拡大



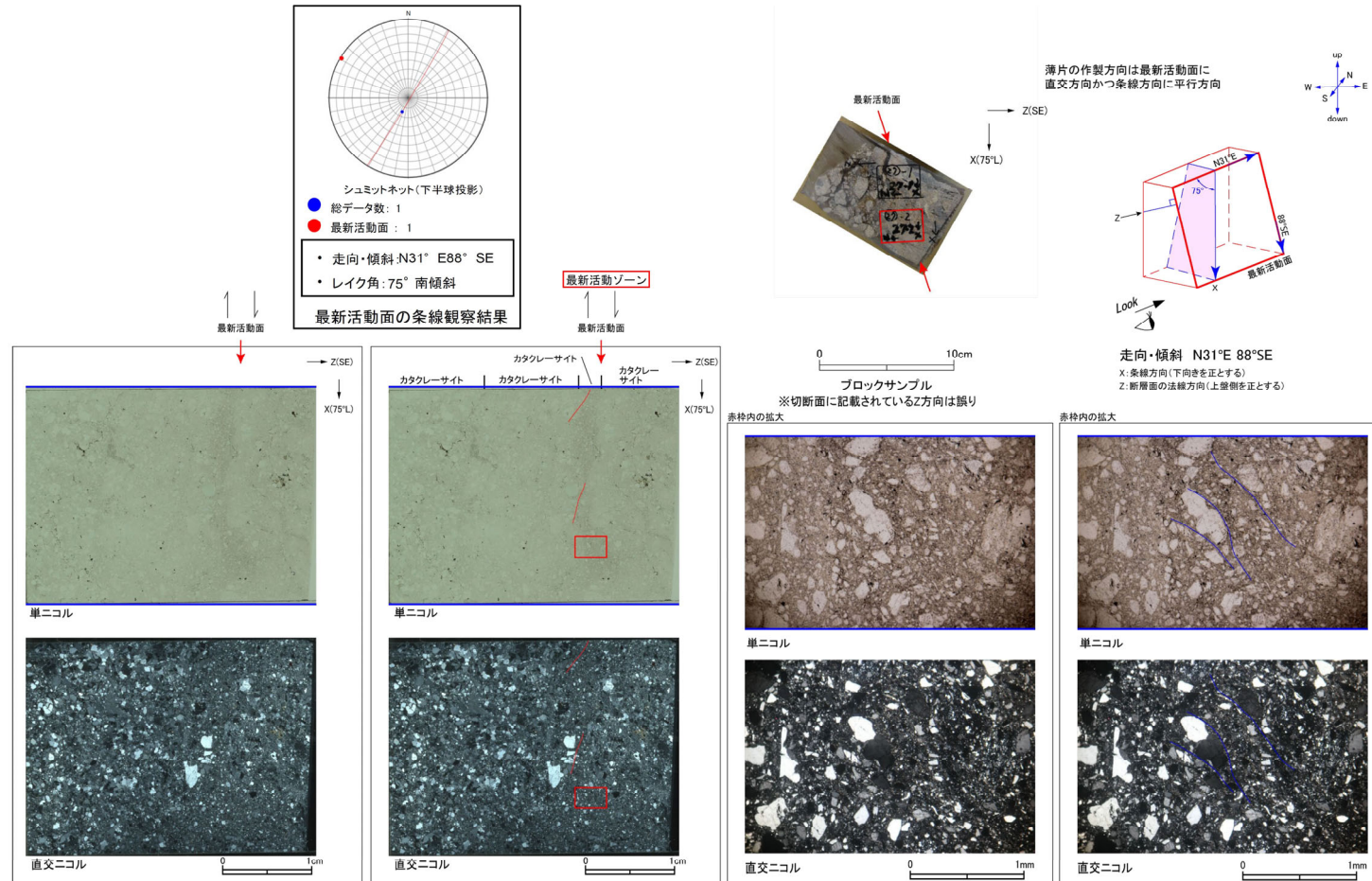
赤枠内拡大



• 薄片試料の観察自体は適切に実施されていた*が、走向・傾斜(N18E77W→N31E88SE)、条線方向(60R→75L)が変更になることにより、傾斜方向が西傾斜から東傾斜となり、条線方向が高角度に変更となるため、変位センスは「正断層成分が卓越する。」に変更となる。(副次的変更)
 ※薄片試料の作製確認については次頁以降に示す。

H27-B-2 深度60.26~60.69m (1/3)

• H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度60.59m)の変位センスは **正断層成分が卓越する。**
 • 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
 > (カタクレーサイト)基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 > (カタクレーサイト)最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
 > (カタクレーサイト)多様な粒径の岩片が多く認められる。
 > (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
 > (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。
 > (カタクレーサイト)塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

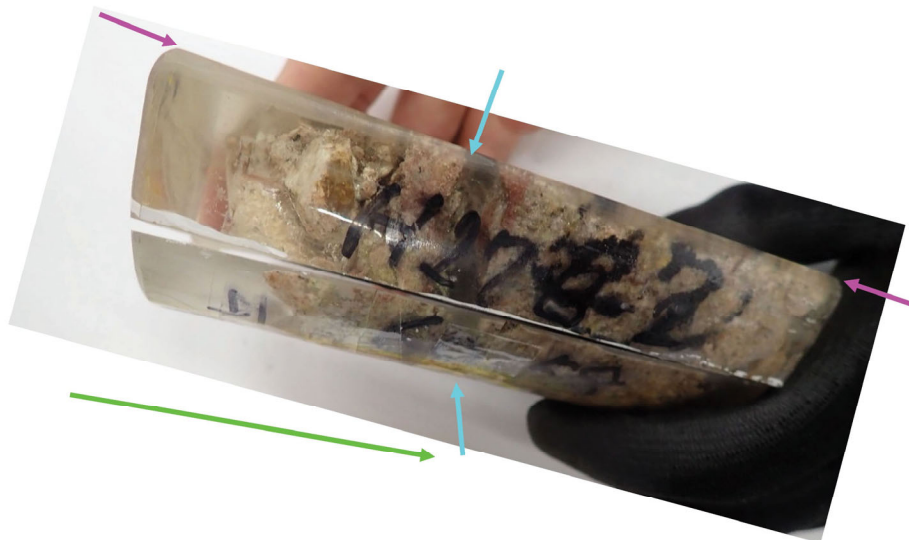


※薄片試料の撮影画像をZ方向に反転し掲載している

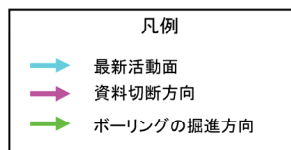
- 薄片試料の作製箇所について、正しい最新活動面位置で、試料切断方向も正しい(最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行)ことを確認した(薄片試料の作製には、条線観察時の最新活動面の見直し(60.58m→60.59m)が反映されていたと推定される)。

試料切断方向確認資料(H27-B-2孔 深度60.59m)

研磨片写真

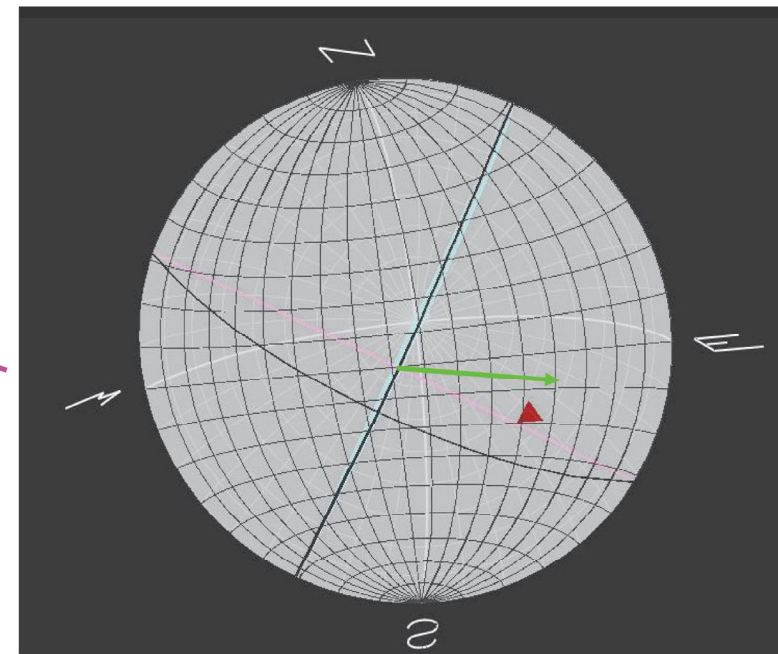


ボーリング掘進方向および最新活動面位置、試料切断方向については、コア写真を利用してその位置が適切であることを確認した。



5cm

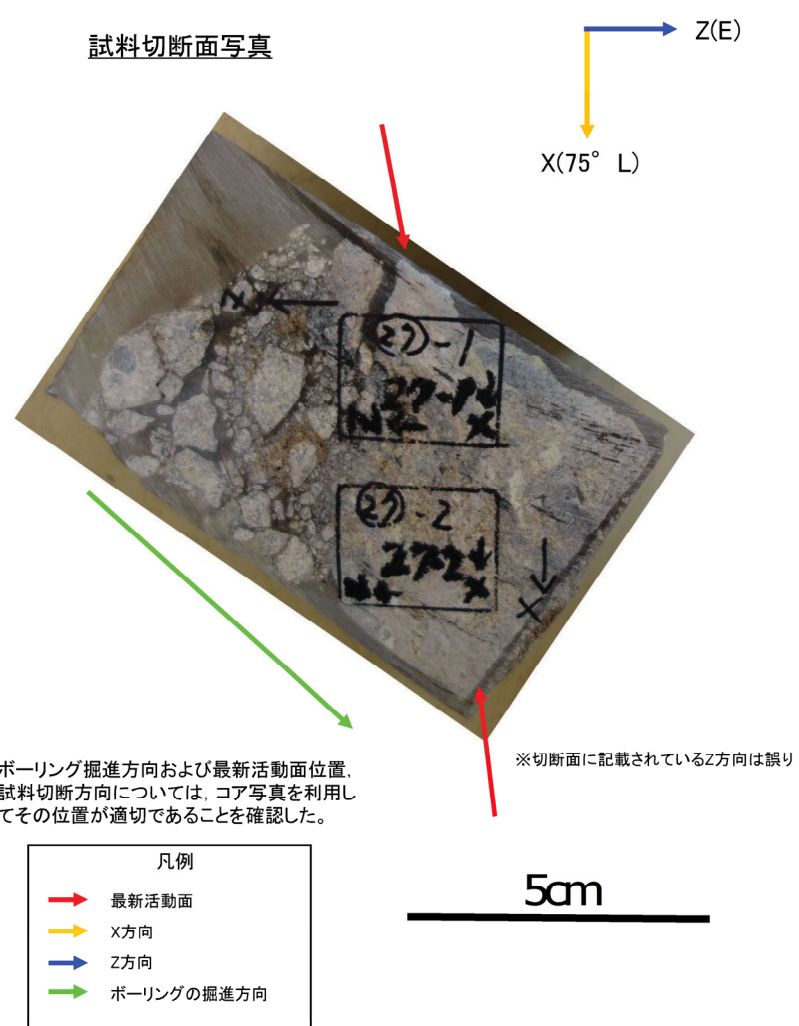
ボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の関係を3次的に示した図



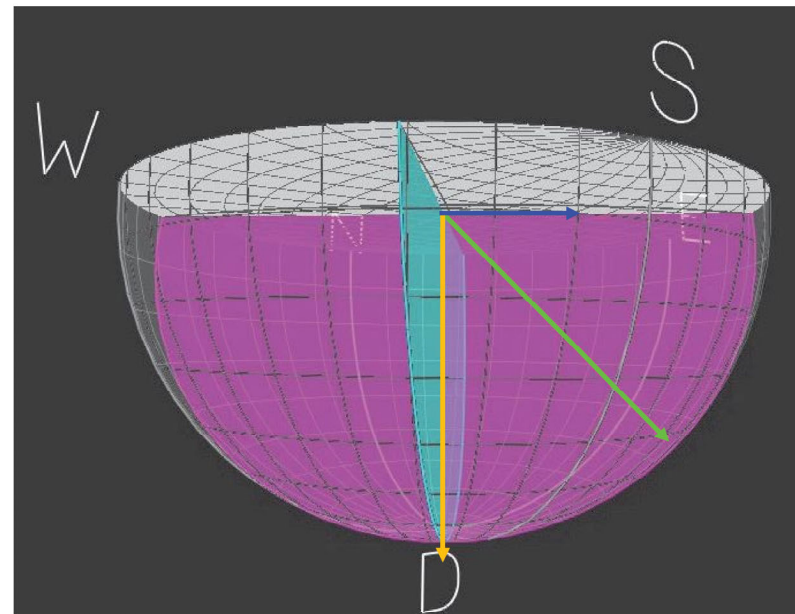
- 薄片試料の作製箇所について、試料の切断方向を確認し、下記の試料切断面写真に示したX方向は正しいことを確認した。
- なお、走向・傾斜の変更に伴いZ方向は、下記の試料切断面写真に示した方向と逆向きに変更となる。(副次的変更)

試料切断面方向確認資料(H27-B-2孔 深度60.59m)

- 薄片作製位置は、肉眼観察により認定した最新活動面に沿って最も細粒化した部分を含み、試料の人為的な乱れのない箇所であることを確認した。



ボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の関係を3次的に示した図



凡例	
→ (Yellow)	X方向
→ (Blue)	Z方向
→ (Green)	ボーリングの掘進方向
○ (Cyan)	最新活動面
○ (Pink)	試料切断面

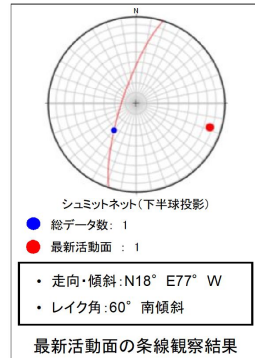
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

変位センスは「右ずれを伴う逆断層である。」と薄片観察結果へ記載し、同じ情報を性状一覧表にも記載していた。

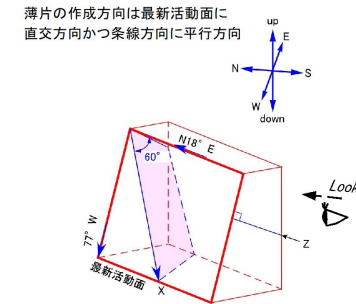
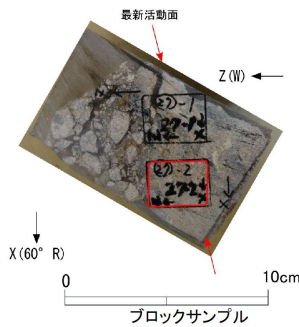
非モデル化破碎帯 薄片試料観察(H27-B-2 深度60.58m)

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(赤太枠)

H27-B-2のボーリングコア(深度60.58m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、**右ずれを伴う逆断層である。**

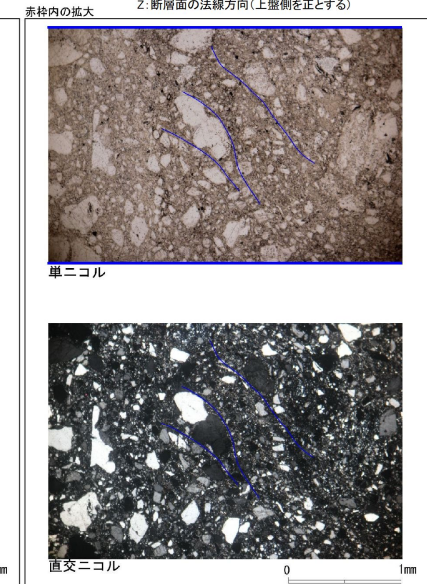
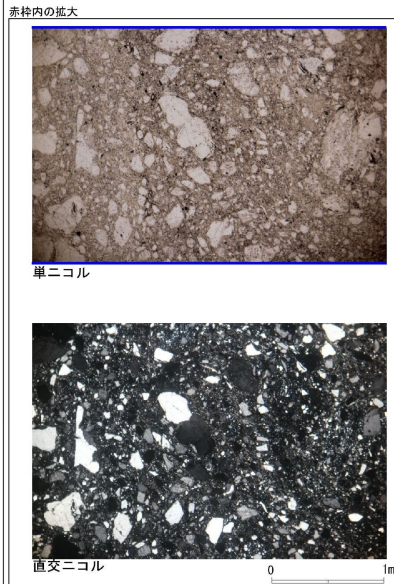
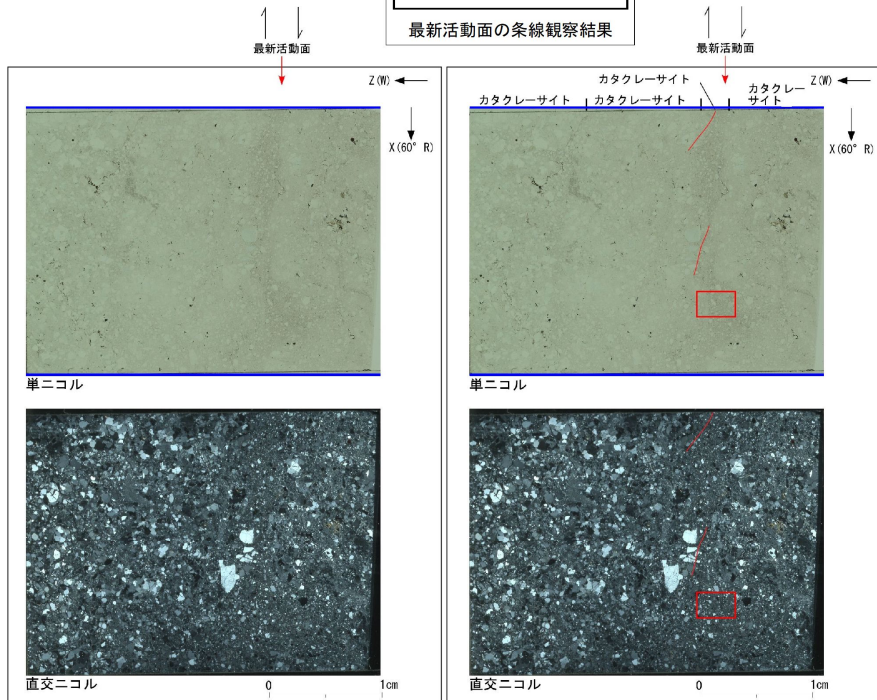


最新活動面の条線観察結果



走向・傾斜 N18° E77° W

X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-2 深度60.26~60.69m (1/3)

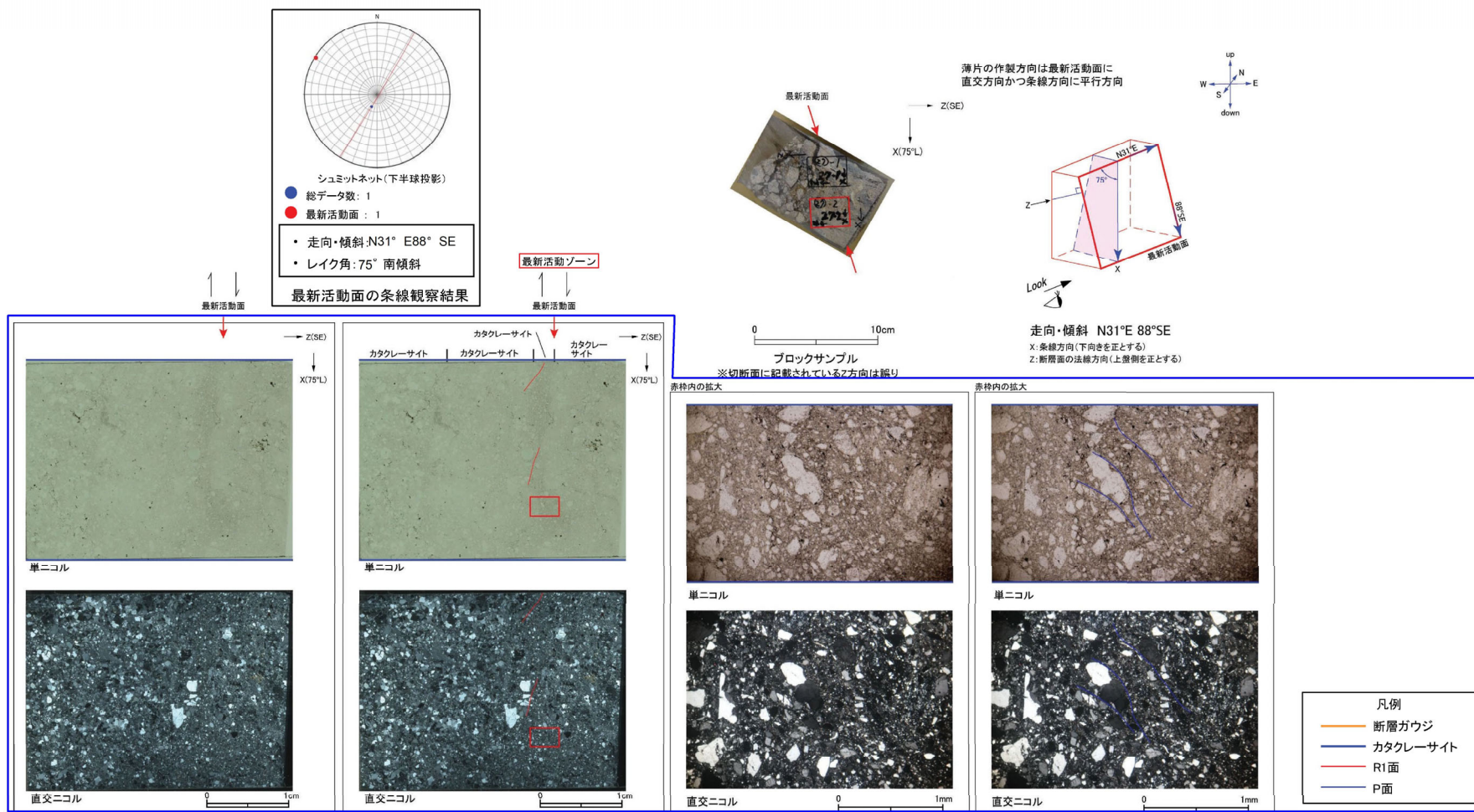
青枠：変位センスに関する部分

68のエビデンス (変位センス) (1/3)

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度60.59m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



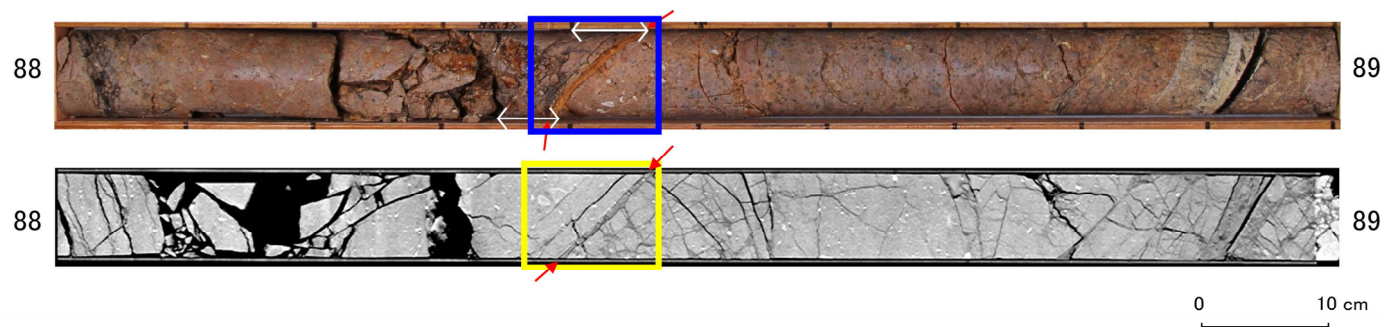
余白

- 従前提示していたデータでは、最新活動面の深度について、性状一覧表のコア写真上に赤矢印、薄片観察結果には深度88.43mと記載していたが、以下のことから、最新活動面の深度を88.43mから88.42mに修正した。
- コアの肉眼観察では最新活動面が判断できないため、CT画像を利用して、より直線的である深度88.42mが最新活動面であることを確認した。
- 従前の薄片観察結果に記載していたデータ(深度88.43m)は、取得時にCT画像を用いて最新活動面を深度88.42mと認定し、該当するせん断面で走向・傾斜の取得、条線観察、薄片試料の作製を行っていたが、深度を薄片観察資料に記載する際に88.43mと誤って記載していたと推定される。なお、性状一覧表には正しい最新活動面である深度88.42mに赤矢印を記載していた。

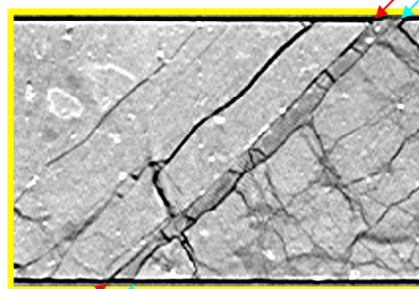
最新活動面認定根拠(H27-B-2 深度88.38~88.43m)

- 肉眼観察では、最新活動面が深度88.42mか深度88.43mかを判断できないため、CT画像を利用した。
- CT画像では、より直線的であることから、深度88.42mのせん断面を最新活動面に認定した。

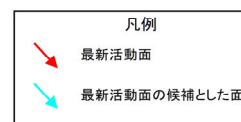
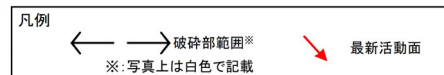
コア写真



青枠部拡大



黄枠部拡大



- 最新活動面の深度は、性状一覧表に数値の記載はないが、最新活動面位置(88.42m)に赤矢印を表示していた。
- 最新活動面の深度は、薄片観察資料に「88.43m」と記載していた。

10. D-29~D-47破砕帯
性状一覧表(7/10)

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青枠)

破砕帯名	確認場所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガワジ・断層角縁の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平		
D-39	H19-No.18 (傾斜60°)	148.30	148.76	-	-	26.0	1.5	無	-	-	-	-	148	
	H24-B11-1 (傾斜45°)	60.36	60.60	N8E	84W	24.0	0.9	無	-	62R	正	左	60	
D-41	H27-B-1 (傾斜45°)	118.94	119.12	N29E	79E	15.1	1.5	有	非平滑	30L	正	右	118	
		119	120											
	H27-B-2 (傾斜45°)	88.38	88.43	N26E	84E	3.9	0.5	無	-	30L	正	右	88	
	H24-B14-2 (傾斜45°)	105.54	105.61	N16E	84E	4.9	-	-	-	12L	-	-	105	



【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

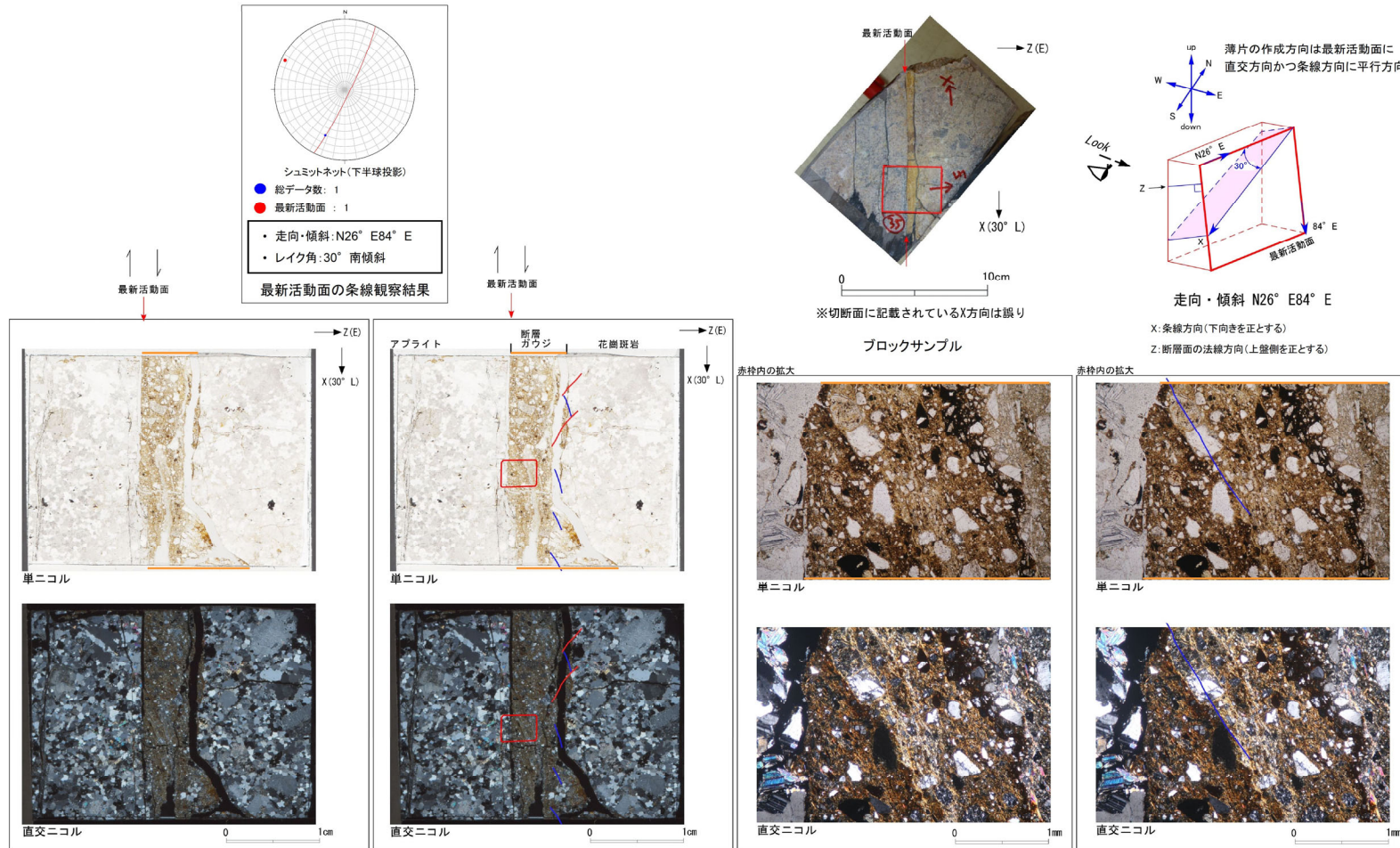
参考2-113

- 最新活動面の深度は、性状一覧表に数値の記載はないが、最新活動面位置(88.42m)に赤矢印を表示していた。
- 最新活動面の深度は、薄片観察資料に「88.43m」と記載していた。

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(赤太枠)

D-41破碎帯 薄片試料観察(H27-B-2 深度88.43m)

H27-B-2のボーリングコア(深度88.43m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。



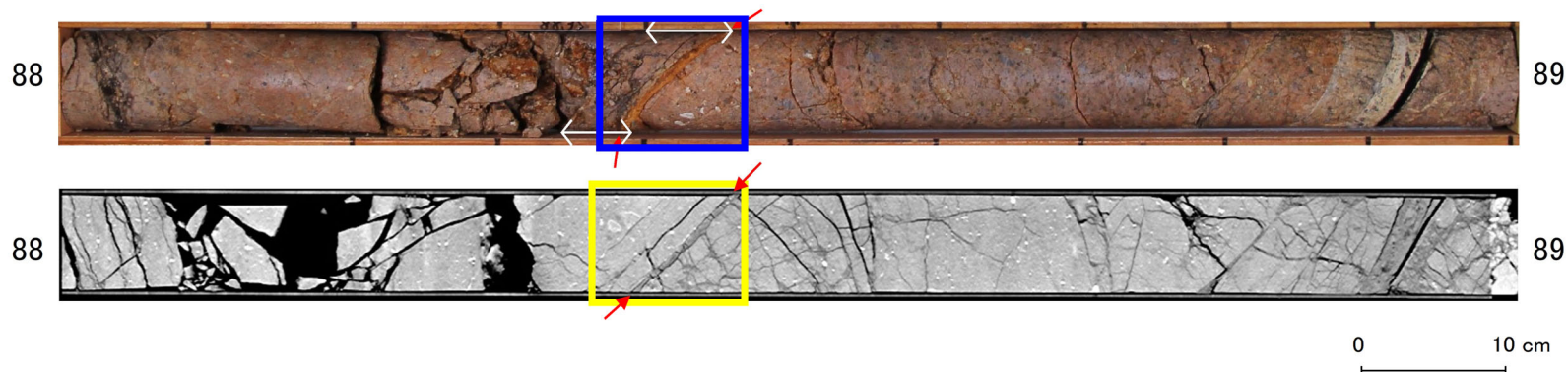
参考1-126

最新活動面認定根拠(H27-B-2 深度88.38～88.43m)

72のエビデンス (最新活動面)

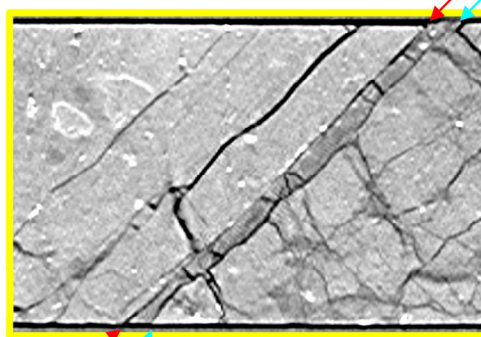
- ・肉眼観察では、最新活動面が深度88.42mか深度88.43mかを判断できないため、CT画像を利用した。
- ・CT画像では、より直線的であることから、深度88.42mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



青枠部拡大

0 5 cm



黄枠部拡大

0 5 cm

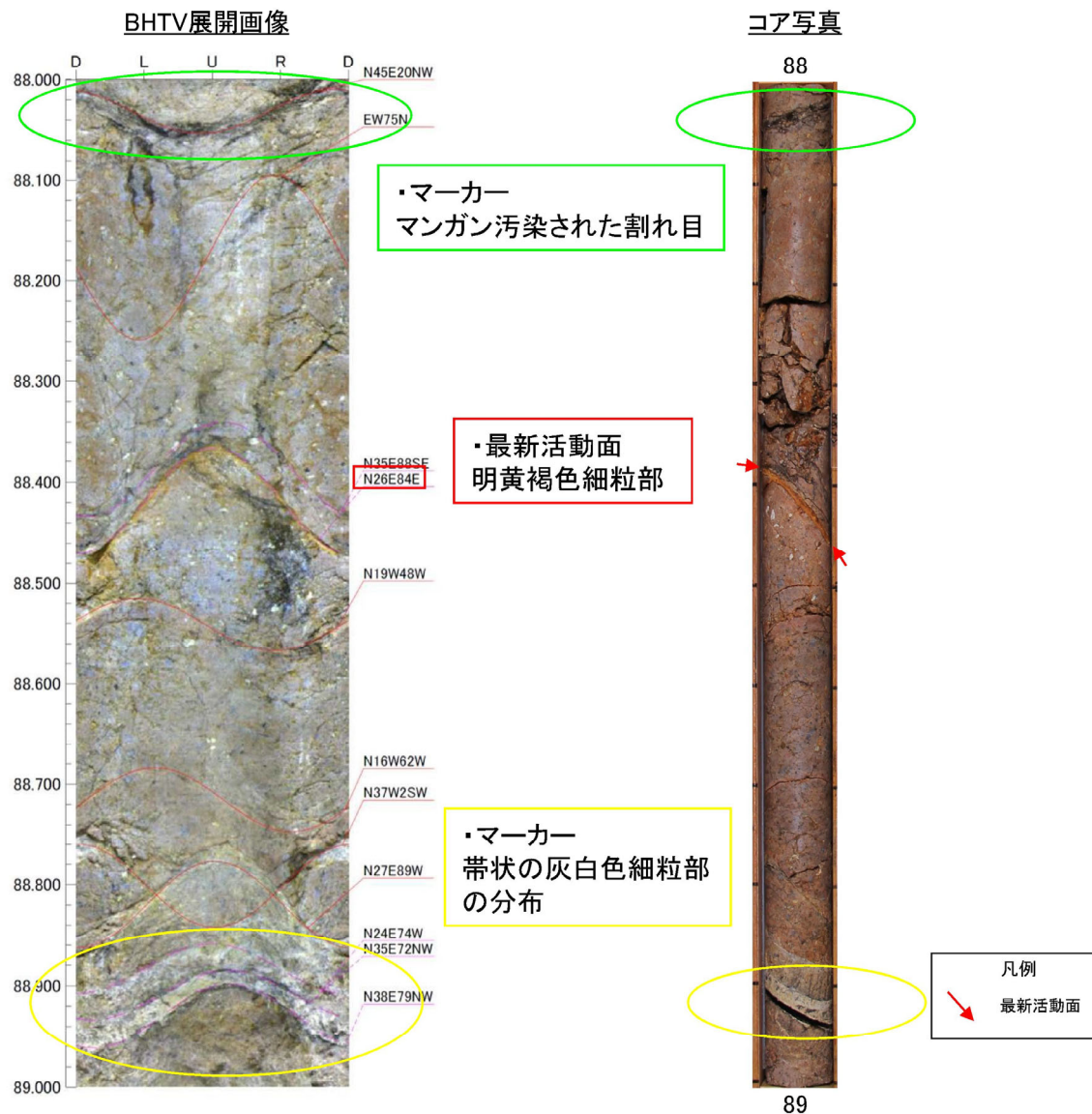
凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載
 ↓ 最新活動面

凡例
 ↓ 最新活動面
 ↓ 最新活動面の候補とした面

- コアにおける明黄褐色の細粒部は幅が狭く、上端・下端とも平行に分布しているため、BHTV画像では細粒部の境界が明瞭な上端側の不連続面(最新活動面:深度88.42m)をトレースしていた。
- よって、最新活動面(深度88.42m)の走向・傾斜は、従前のデータから変更はない。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果(H27-B-2 深度88.38~88.43m)

- H27-B-2 深度88.38~88.43mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN26° E84° Eである。

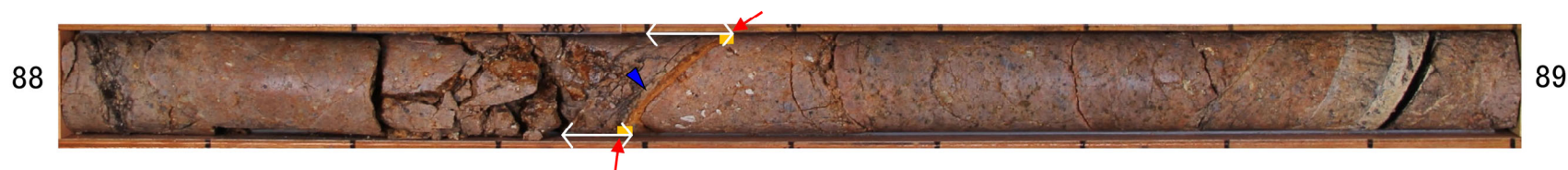


- 条線方向は走向・傾斜を用いて観察された条線を補正して導出している。条線の観察は適切に行われていた。*
- ※最新活動面である条線観察位置(深度88.42m)において採取した試料を用いて、今回設定したプロセスによって観察した条線方向(赤枠写真)により、当時の観察は正しいことを確認した(次頁参照)。

条線観察結果(H27-B-2孔 深度88.42m)

H27-B-2孔 深度88.42mの断層面の走向・傾斜はN26° E84° Eであり、30Lの条線が認められる。

コア写真



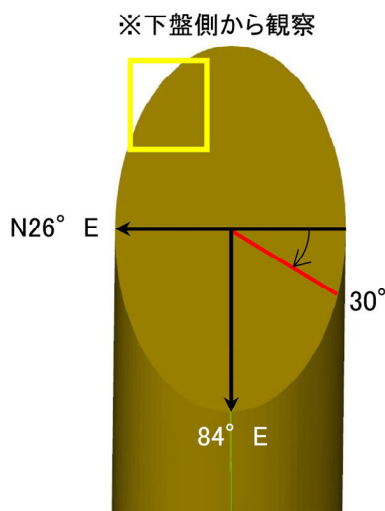
観察模式図は、条線の観察状況を示すため下盤側から上盤側を見た図として作成している。写真は条線方向の表記(条線方向は上盤側から見た方向で表記する)と合わせるため、上盤側から下盤側を見ているように観察面の写真を反転している。

凡例

- 条線観察位置 (Blue triangle)
- 断層ガウジ (Yellow line)
- 破砕部範囲※ (Double-headed arrow)
- 最新活動面 (Red arrow)

※:写真上は白色で記載

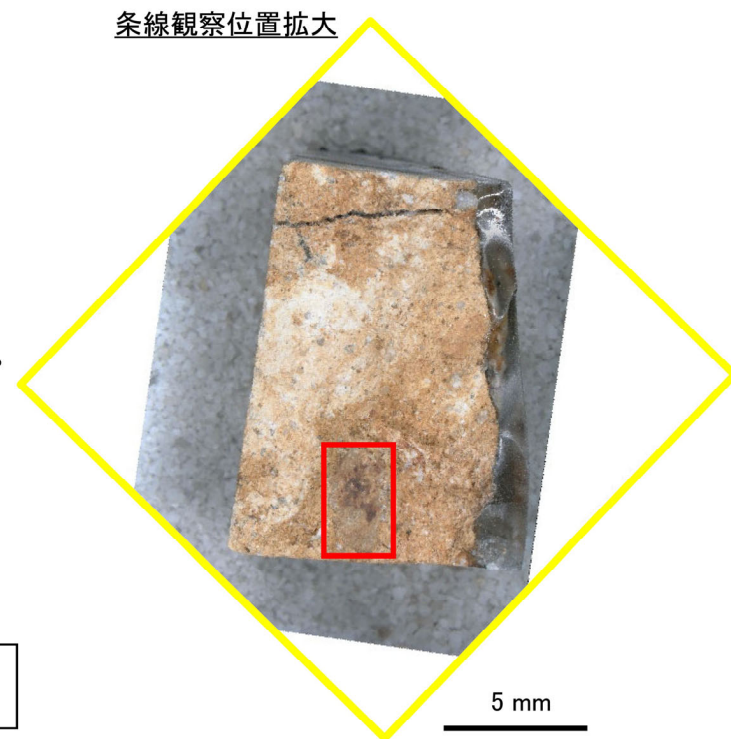
観察模式図



凡例

- 最新活動面 (Yellow oval)
- レイク (Red arrow)

条線観察位置拡大



赤枠内拡大

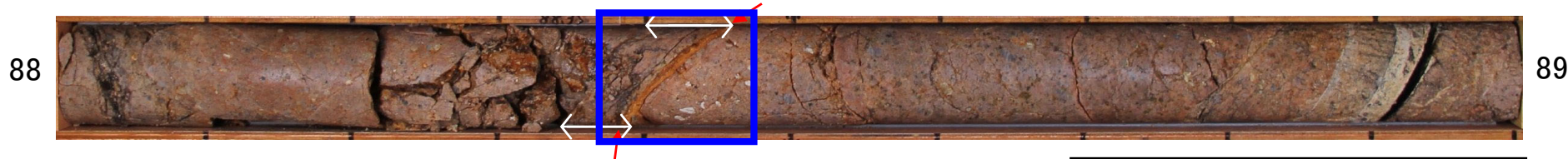


凡例

- 条線方向 (Green arrows)

- 条線観察位置を残試料より復元し、最新活動面位置(深度88.42m)で計測していることを確認した。

コア写真



研磨片作製位置



青枠部拡大

0 5 cm

凡例
最新活動面

研磨片写真(斜めから)

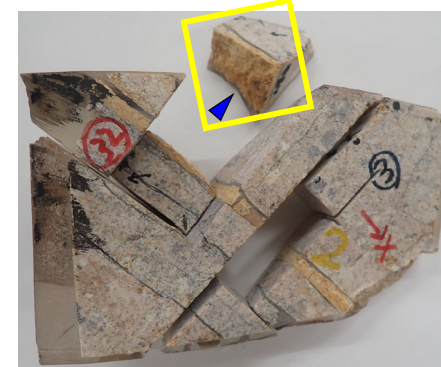


0 5 cm

凡例
試料切断方向

凡例
← → 破碎部範囲*
※:写真上は白色で記載
最新活動面

条線観察位置



0 5 cm

凡例
条線観察位置

研磨片写真



0 5 cm

凡例
最新活動面

試料切断面



0 5 cm

凡例
最新活動面

条線観察位置拡大



5 mm

注)条線方向は上盤から見た方向で表記するため、前頁の写真は反転している。